

平成 27 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	27K12	氏名	徳永 明子
研究主題 —副主題—	表現運動系の指導における主体的な学びを促す手だて —「振り返りのサイクル」を用いた「あしあと帳」の活用—		
所属校	品川区立台場小学校	派遣先	東京学芸大学教職大学院

項目	内容												
I 研究の目的	<p>表現運動系の学習の特徴は、勝ち負けや記録の向上などを目指す領域とは違い、全ての子供が今もっている力やその違いをそのまま生かせることであると、白旗（2014）は述べている。だが、山崎（2014）は、家庭や地域の方々に“見せる”ことに主眼が置かれた運動会の演技種目の練習時間＝表現運動系の学習時間という現状に、“見せる”ことだけではなく、踊ることそのもののおもしろさを子供たちが探求できるような授業にしていく工夫が必要だと、運動会と表現運動系の体育の学習との兼ね合いの問題を指摘している。そこで、表現運動系の学習の中で主体的になりにくいと考えられる「運動会に向けたソーラン節」の学習において、子供の主体的な学びを促したいと考えた。</p> <p>その手だてとして、「振り返りのサイクル」を用いた「あしあと帳（学習日誌）」を活用することを考えた。「振り返りのサイクル」とは、自己の「経験と行動（学習）」を「振り返り」、それに基づいた「自己評価」を行う。その「自己評価」を受けて、次の学習の「目標設定」をして、新たな「経験と行動（学習）」につなげることである。この「振り返りのサイクル」を用いることでメタ認知能力を育み、自ら課題を見つけて、自ら解決する力を養うことができないだろうか。また、自己評価だけではなく友達や教師による評価、さらに、小学生という発達段階を考えて、保護者による評価（以下、友達評価、教師評価、保護者評価とする）を加えることで、自己に対する評価が高まり、より一層、主体的に学習に取り組むことができるのではないかと考えた。</p> <p>以上のことより、本研究では「振り返りのサイクル」を用いた「あしあと帳」の活用が、表現運動系の学習に対して、児童が主体的に取り組む手だてとなるかを検証し、指導の在り方を探ることを目的とする。</p>												
II 研究の方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 理論研究：先行研究の調査と分析 2 実践研究：「振り返りのサイクル」の改訂 3 検証授業 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;">実施時期</td> <td style="padding: 5px;">平成 27 年 9 月～10 月中旬</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">実施内容</td> <td style="padding: 5px;">第 3・4 学年のソーラン節の指導実践</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">対象者</td> <td style="padding: 5px;">都内公立小学校 第 3 学年 24 名 第 4 学年 17 名 計 41 名</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">事前調査</td> <td style="padding: 5px;">子供質問紙調査（9 月上旬実施）</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">指導計画</td> <td style="padding: 5px;">全 12 時間 授業前に目標を設定、授業後に「あしあと帳」を記入 第 1 時間目：「あしあと帳」の活用の仕方の説明 第 8 時間目：「見せ合いタイム（友達評価）」 単元終了後：「保護者による振り返り（保護者評価）」 「子供による振り返り（自己評価）」</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">事後調査</td> <td style="padding: 5px;">子供質問紙調査・保護者質問紙調査（10 月中旬実施）</td> </tr> </table> <ol style="list-style-type: none"> 4 検証結果分析・まとめ 	実施時期	平成 27 年 9 月～10 月中旬	実施内容	第 3・4 学年のソーラン節の指導実践	対象者	都内公立小学校 第 3 学年 24 名 第 4 学年 17 名 計 41 名	事前調査	子供質問紙調査（9 月上旬実施）	指導計画	全 12 時間 授業前に目標を設定、授業後に「あしあと帳」を記入 第 1 時間目：「あしあと帳」の活用の仕方の説明 第 8 時間目：「見せ合いタイム（友達評価）」 単元終了後：「保護者による振り返り（保護者評価）」 「子供による振り返り（自己評価）」	事後調査	子供質問紙調査・保護者質問紙調査（10 月中旬実施）
実施時期	平成 27 年 9 月～10 月中旬												
実施内容	第 3・4 学年のソーラン節の指導実践												
対象者	都内公立小学校 第 3 学年 24 名 第 4 学年 17 名 計 41 名												
事前調査	子供質問紙調査（9 月上旬実施）												
指導計画	全 12 時間 授業前に目標を設定、授業後に「あしあと帳」を記入 第 1 時間目：「あしあと帳」の活用の仕方の説明 第 8 時間目：「見せ合いタイム（友達評価）」 単元終了後：「保護者による振り返り（保護者評価）」 「子供による振り返り（自己評価）」												
事後調査	子供質問紙調査・保護者質問紙調査（10 月中旬実施）												

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>【子供にとって…】</p> <p>◇ 「あしあと帳」を通して「振り返りのサイクル」を回したことで、自分自身が思い描く動きのイメージを深めていくことができ、主体的に学ぶ姿勢につながった。</p> <p>◇ 「見せ合いタイム」があったことで、友達がどのように学習に取り組んでいるかを知ることができ、自分の学習に生かすことができた。また、交流を通して、個々の学習が深い学びへと更新された。</p> <p>◇ 「保護者、教師、友達による評価」は次の学習への意欲や励みにつながった。</p> <p>【保護者にとって…】</p> <p>◇ 「あしあと帳」は、我が子の学習への取組の様子や成長過程が分かる効果的なツールとなった。</p> <p>◇ 「あしあと帳」を読んでから参観したことで、運動会当日は、我が子の姿だけではなく、今まで共に学習に励んできた我が子の友達の姿も、より一層感慨深いものと感じることができた。</p> <p>◇ 「あしあと帳」を通して、「教師—子供」だけではなく、「子供—子供」「子供—教師」「子供—保護者」、そして直接対話の無い「保護者—教師」までもが円滑にコミュニケーションが図れるようになった。〈三位一体の教育の推進のツール〉</p> <p>【教師にとって…】</p> <p>◇ 「あしあと帳」に学習終了までの道筋や変容が明確に記録されるため、一人一人の学習状況を把握することができた。また、子供の成長の変化を長いスパンで捉えることができた。</p> <p>◇ 保護者から「あしあと帳」を基にした味わい深い感想が増え、教師にとっても次の指導への意欲や励みにつながった。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>【成果】</p> <p>子供は、自ら課題を見つけて「目標設定」し、「振り返りのサイクル」を用いて試行錯誤を繰り返す中で、学習を通して学んだことを一般化することができた。つまり、「学び方を学んだ」と言うことができる。この「経験から学ぶ力」こそ、主体的に学ぶ姿勢であり、「振り返りのサイクル」を用いた「あしあと帳」は、これからの社会に求められる汎用的能力を養うための有効な手法と考えられる。</p> <p>【課題】</p> <p>子供と教師の評価が肯定的に影響し合い、連動することで、子供にとっても教師にとってもより良い学びにつながると考えられる。本研究では、子供に焦点を当てて検証を進めたが、今後、子供と教師の関係性について検証したいと考える。</p> <p>また、今回の研究では保護者の関わりは学習終了後の保護者評価、一度のみであった。保護者の関わり方の比重を発達段階に合わせて、どのように変えていくべきなのか、更なる実践を通して検討していきたいと考える。</p>

